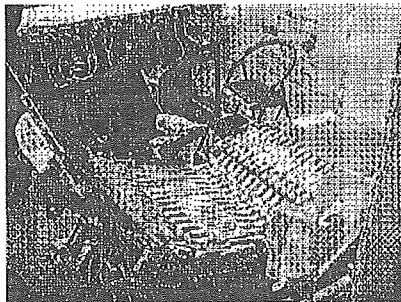
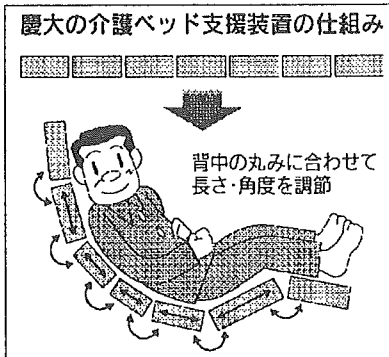


介護ベッド開発用装置

慶大 快適な姿勢を調査

慶応義塾大学理工学部の上野山崎信寿教授らは、上半身を長時間起こしていても疲れにくい介護用ベッドを実現するため、ベッド型の開発支援装置を開発した。足の部分から頭部まで七分割した構造になっており、上半身を起こした個々の高齢者の姿勢に合うように自在に折れ曲がるほか、長さも変えられる。ソファなどの設計にも役立つことで、寝たきり防止につなげたいと考えている。



ベッドの上で上半身を起こしたときに快適な姿勢を調べる

開発したベッド型の装置は、七分割された各パーツがくしの歯をかみ合わせたような構造になっている。操作パネルで、それぞれのくしの部分の長さを調整できるほか、上半身を起こしたときに背中丸みに合わせてし

つかりと体重を分散させて支えるベッドの形状が分かる。慶大チームは今後、様々な体形の人に開発した

装置の上で横になっても因になる場合があったという。長時間体を起こしていても負担にならず、病気などで安静にする必要がある高齢者が今後調べ、快適性を高めた介護用ベッドの開発につながる。従来の介護用のベッドも背もたれになる部分がある。こうした悪循環の防止には、体を常時起こす早期のリハビリテーションが重要という。

従来の介護用のベッドの減速を招き、寝たきりになりやすいと言われている。こうした悪循環の防止には、体を常時起こす早期のリハビリテーションが重要という。